

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』第1回

現役最高幹部、命をかけた内部告発！

講談社発行の『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題をマスコミの立場から連載記事で告発した。12年前の週刊文春事件以来の大がかりな特集であるが、本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

<週刊現代2006年7月15日発売号>

「革マル派」による支配

約7500kmの線路網を有し、1日で約1600万人を運ぶ「世界最大級の公共交通機関」、JR東日本。そのJR東日本がおかしい。

今年2月に山手線新橋 浜松町間で、トンネル工事のミスから、レールが沈下する事故が発生。16本が運休し、約11万人に影響した。さらに2ヵ月後の4月、同じ山手線の高田馬場駅付近で、同様のミスが起こり、今度は線路が隆起。

山手線、埼京線が最大7時間半遅れ、計406本が運休。約32万人に影響し、国土交通省は清野 智せいのだとし社長(58歳)を呼び出し、警告書を手渡した。その後も、4月28日に京浜東北線の御徒町おかちまち 上野間で信号トラブル 4月30日に中央線新宿駅でポイント故障 5月9日に常磐線で送電トラブル 5月11日に京浜東北線蒲田 大船間で電車がストップと、トラブルが続発。今年だけでも、わずか3ヵ月足らずの間に6件もの輸送障害が起こり、うち半数が復旧までに3時間以上を要している。

昨春のJR西日本の脱線事故のような大惨事には至っていないものの、ここ最近のJR東日本では、まさに「異常事態」が続いていると言わざるを得ない。だが、これよりはるかに深刻な「異常事態」がJR東日本の奥深くで進行していることは、ほとんど知られていない。なぜなら、それは前述の事故や復旧の遅れとは違い、毎日のように通勤や通学でJR東日本を利用する一般乗客の目にはけっして触れぬよう、長きにわたって巧妙に隠蔽され続けてきたからだ。

利用客の目にはけっして見えないもう一つの異常事態。そのすべてを知る人物がまさに、私の前を歩いていた。「彼」は人気ひとけのない喫茶店に私を案内すると、ようやく笑みを見せ、私に名刺を差し出した。鮮やかな緑色のJR東日本のロゴマークの横には、正式名称である「東日本旅客鉄道株式会社」の文字。そしてその下に記された役職名は、紛れもなく彼がJR東日本の現役最高幹部であることを示している。だが、現時点で彼の氏名、役職を明らかにすることはできない。彼の素性を明らかにすることは、彼の社内での立場を脅かすだけでなく、生命すら危険にさらすことになるからだ。A氏が単なる「被害妄想」の持ち主でないことは、これから紹介する彼の証言を読めば納得していただけるだろう。

